済生会横浜市東部病院小児科専門研修プログラムの概要

当科は横浜市東部および北部の地域中核病院として位置づけられ、小児科の各専門領域の医師をそろえてあらゆる小児の疾患に対応しております。横浜市の委託も受けて1次から2次までのすべてと一部の3次の救急患者を受け入れる体制を整備しています。小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理、新生児の管理も研修できる施設です。さらに未熟児・重症新生児の管理を連携施設である東邦大学大森病院で経験でき、血液・腫瘍疾患および小児の膠原病やリウマチなどの疾患は関連施設の横浜市大・神奈川県立こども医療センターで経験することができます。また横浜市鶴見区および神奈川区の乳幼児健診を経験して小児の健康支援や育児支援を実践します。実践地域の特性と病院の役割に応じて、すべての領域にわたり経験できる体制です。

年数	研修先	研修内容
1年目	横浜市東部病院小児科病棟	感染性疾患・神経疾患・アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・循環器疾患・腎泌尿器疾患・内分泌代謝疾患を担当医として研修
2年目		それに加えて NICU で新生児疾患・先天異常疾患を6か月研修
3年目	横浜市南部病院	3か月間、血液・腫瘍疾患の担当医として研修

また専門性の高い3次医療の経験を積んで将来の subspecialist を目指すきっかけをつくるために、

- ・横浜市大附属病院(循環器・膠原病・血液腫瘍)
 - ・横浜市大附属市民総合医療センター(神経・腎臓・内分泌)
 - ・神奈川県立こども医療センター(循環器・血液腫瘍)
 - ・東邦大学医療センター(新生児科)
- での研修も希望があれば可能です。

3年間を通じ、横浜市鶴見区・神奈川区の保健センターで乳児健康診査を、また外来にて予防接種などの小児保健・社会医学の研修と救急疾患の対応を担当医として研修します。

<当研修プログラムの週間スケジュール(済生会横浜市東部病院)>

	月	火	水	木	金	土・日
7:30-8:30	受持患者情報の把握					
8:30-9:00	朝カンファレンス(患者申し送り) チーム回診					週末日直 (2/月)
9:00-12:00	病棟	病棟	病棟 乳幼児健診 (3/月)	一般外来	病棟	
13:00-14:00	レントゲンカンファ ファ (1/月)	専門外来	病棟	病棟	病棟	小児科学会 神奈川県 地方会 (年6回)
14:00-17:00	病棟			症例検討会	総回診	
17:00-17:30	患者申し送り・チーム回診					
18:00-20:00		抄読会 研究報告会		合同勉強会 (年3回)		
	当直(月5-6回)					

グレー部分は特に教育的な行事です。詳細は下記を参照してください。

各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

1) 朝カンファレンス・チーム回診(毎日):

毎朝、患者申し送りをを行い、チーム回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進める。

2) 総回診(毎週):

受持患者について指導医陣に報告してフィードバックを受ける。受持以外の症例についても見識を深める。

3) 症例検討会(毎週):

診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行う。

4) レントゲンカンファ(毎月):

小児の放射線診断の専門医のミニレクチャーを受け、症例提示をしながら質疑を行う。

5) CPC:

死亡・剖検例、難病・稀少症例についての病理診断を検討する。

6) 周産期合同カンファレンス(毎月):

産科、NICU、関連診療科と合同で、超低出生体重児、手術症例、先天異常、死亡例などの症例検討を行い、臨床倫理など小児科専門医のプロフェッショナルリズムについても学ぶ。

7) 抄読会・研究報告会(毎週):

受持症例等に関する論文概要を口頭説明し、意見交換を行う。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学ぶ。

8) 若手勉強会(年6回):

当プログラムに参加するすべての専攻医が一同に会し、勉強会を行う。多施設にいる専攻医と指導医の交流を図る。

9) ふりかえり:

毎月1回、専攻医と指導医が1対1またはグループで集まり、1か月間の研修をふりかえる。研修上の問題点や悩み、研修(就業)環境、研修の進め方、キャリア形成などについてインフォーマルな雰囲気です話し合いを行う。

10) 学生・初期研修医に対する指導:

病棟や外来で医学生・初期研修医を指導する。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけている。

臨床現場を離れた学習:

以下の学習機会を利用して、到達目標達成の助けとしてください。

- (1) 日本小児科学会学術集会、分科会主催の学会、地方会、研究会、セミナー、講習会等への参加
- (2) 小児科学会主催の「小児科専門医取得のためのインテンシブコース」(1泊2日): 到達目標に記載された24領域に関するポイントを3年間で網羅して学習できるセミナー
- (3) 学会等での症例発表
- (4) 日本小児科学会オンラインセミナー: 医療安全、感染対策、医療倫理、医療者教育など
- (5) 日本小児科学会雑誌等の定期購読および症例報告等の投稿
- (6) 論文執筆: 専門医取得のためには、小児科に関する論文を査読制度のある雑誌に1つ報告しなければなりません。論文執筆には1年以上の準備を要しますので、指導医の助言を受けながら、早めに論文テーマを決定し、論文執筆の準備を始めてください。

研修施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方

年次毎の研修計画

1年次	健康な子どもと家族、common disease、小児保健・医療制度の理解 基本的診療技能(面接、診察、手技)、健康診査法の修得 小児科総合医、育児・健康支援者としての役割を自覚する
2年次	病児と家族、重症疾患・救急疾患の理解 診療技能に習熟し、重症疾患・救急疾患に的確に対応できる 高度先進医療、希少難病、障がい児に関する理解・技能の修得 小児科総合医としての実践力を高める、後輩の指導
3年次 (チーフレジデント)	子どもの代弁者、学識者、プロフェッショナルとしての実践 専攻医とりまとめ、後輩指導、研修プログラムへの積極的関与

研修施設群と研修モデル

	研修基幹施設	連携施設	連携施設
	横浜市東部病院	横浜市南部病院	川崎協同病院
	横浜東部医療圏	横浜南部医療圏	川崎南部医療圏
小児科年間入院数	1500	1520	221
小児科年間外来数	17000	8880	11541
小児科専門医数	11	6	4
(うち指導医数)	10	6	4
専攻医 イ	1	2	3
専攻医 ロ	1	3	2
施設での研修内容	小児医としてヒトの成長と発達をみまもり援助するという心構えを確立する。小児科学のすべての領域をくまなく経験し、小児科医として必須の知識と診療技能を習得する。	小児の血液・腫瘍疾患の専門研修に参加する。	地域医療・保健・救急医療を経験する。

その他の関連施設名	小児科 年間入院数	小児科 年間外来数	小児科 専門医数	うち 指導医数
1) 横浜市立大学附属病院	600	10000	11	11
2) 横浜市立大学付属 市民総合医療センター	700	15000	15	13
3) 神奈川県立 こども医療センター	7900	34500	47	32
4) 東邦大学医療センター 大森病院	1000	15000	22	22
5) 横浜市鶴見区保健センター	0	0	0	0
6) 横浜市神奈川区保健センター	0	0	0	0